

要望書

近鉄四日市駅・JR四日市駅周辺整備事業について



令和5年1月
四日市市

平素は、四日市市の政策にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

四日市市は、東西交通の要衝に位置し、古くから東海道の宿場町、港町として栄えてきました。近年では、臨海部の産業集積に加え、内陸部に世界最先端の半導体工場が立地するなど、我が国有数の産業都市となっています。

また、新名神高速道路をはじめとした広域幹線道路網の整備が進むとともに、2027年にはリニア中央新幹線の東京から名古屋間が開通する見通しとなっており、四日市市には、中部圏域の一翼を担う都市として、さらなる飛躍が期待されています。

このリニア時代の幕開けに向け、本市では近鉄四日市駅からJR四日市駅にかけての中心市街地において、駅前広場の再編成や両駅を結ぶ幅員70mを有する中央通りを歩行者中心の街路空間とする中央通りの再編事業や新図書館の建設などからなる中心市街地再開発プロジェクトに取り組んでいます。

このような中、国土交通省におかれましては、計画の検討段階からご支援をいただいております。令和2年度からは社会資本整備総合交付金事業(都市・地域交通戦略推進事業)、令和3年度からはウォークブル推進事業と駅まち空間の再構築を図る事業の個別補助配分箇所としても採択していただくなど、本市の取り組みに強力なご支援をいただいております。大変感謝しております。

こうしたご支援のもと、昨年3月には『「ニワミチよっかいち」中央通り再編基本計画(第2期中間とりまとめ)』とスマート・シティの実現を目指す『四日市スマートリージョンコア実行計画』を公表し事業を進めさせていただいております。今年度は、本市中心市街地の新たなシンボルとなる円形デッキのデザインを公表するとともに、近鉄四日市駅西側から中央通りの歩行空間を拡大する工事にも本格的に着手しております。

この中央通りの再編に呼応して、沿道を中心にホテルやオフィスの立地などの民間投資も相次いでおり、まちなか再生に向けた機運が大きく高まっております。

このような中、中央通り再編により新たに生まれるまちなかのフィールドを、様々な人々が様々なチャレンジができる空間としていくために、昨年秋には、25日間におよぶ賑わい創出社会実験「はじまりのいち」と自動運転車両等の実証実験「まちなかモビリティ」や、官民連携のまちづくりを考えるシンポジウムを開催しました。

本市といたしましては、リニア時代の到来やポストコロナへの対応など人々のニーズが変化・多様化する中でも、市民や来街者の期待に応えられるよう、駅まち空間の再構築や居心地が良く歩きたくなる魅力的なまちなかの実現を官民一体となって推し進めてまいりますので、引き続き、必要な予算の配分について特段のご配慮をいただきますようお願い申し上げます。

令和 5年 1月

四日市市長 森 智広



シンポジウムの様子



「まちなかモビリティ」自動運転車両(ナビヤ社:アルファ)の様子



「はじまりのいち」クスノキ並木空間の様子



「はじまりのいち」スケートボードパークの様子